

こども理解のとびら

第2号 (2021年7月16日)

“2021こども理解プロジェクトMIYAGAKU”による「こども理解のとびら」第2号をお届けします。

本ニュースが保護者の皆さまの子育てに少しでもお役に立てたら幸いです。

〈今月のエピソードタイトル〉

♪どっちでしょ〜♪ あそぶあそぶ♪ 棒打ちがしたい♪ 3歳児にとっての絵本の世界♪ 木のおままとセットとの出会い♪ シャボン玉、ぱちん♪ 砂の上に形を描く♪ 木の葉の山から♪ ゲーム遊びの中での経験♪ 思いついたことを試す♪ あ!いろいろ!♪ 小さなヒーロー♪ “チクチク”との出会い、そして別れ

*エピソード記録集は両園に置いてあります。どうぞお手にとってご覧ください。

「2021こども理解プロジェクトMIYAGAKU」宛てにご意見、ご感想をお待ちしております。右横のQRコードを読み取り、ご意見、ご感想をお気軽にお寄せください。今後のプロジェクト活動に活かしていきたいと思っております。

(担当窓口：山下)



2021

こども理解プロジェクト

MIYAGAKU



木育 × MIWA工房

-訪問記1-

宮崎国際大学の守川美輪先生は、プロジェクトで園を訪問する際に、毎回、たくさんの手作りの木のおもちゃを持っていき、子どもたちの“木のおもちゃで遊ぶことを通した学びの姿”に注目されています。子どもたちが遊ぶ姿を見て、遊びを通した育ちがさらに豊かになるように、改良を重ねておられます!

今回は、守川先生の研究室(MIWA工房)を訪ねました!子どもたちが触れる前の“アーチ型積み木制作過程”を紹介します!

- ①木に、切り線を描きます。
- ②電動糸のこぎりを使って虹のように描かれた線に沿って、アーチ状に切っていきます。
- ③紙やすりで磨きます。
- ④木目に沿って色を塗り、オイルで仕上げて完成です!



発見1★木の香り のこぎりの刃をいれるごとに、木の香りが広がります!

発見2★木のあたたかさ プラスチック製のおもちゃとは違い、手で握ると自然のあたたかさを感じます。また年輪の違いも不思議!太陽や土、雨、いきものといった自然に包まれていることを木に触れる中で感じます。



意図を持ってつくる

宮崎国際大学教育学部 守川美輪

清武みどり幼稚園、朝の自由遊びの時間。さくら組のAさんは一人で黙々と積み木を並べ、手に持った積み木を、左手前の円柱の上に置きました。その後、ほっとして力を抜いたようでした。

私は「変わった並べ方だな」と思いました。後になって写真を見ると、半円や三角形を選び、上面が平らにならないようにしていることに気づきました。「半円や三角形が上にくるようにしよう」と意図して並べていたようです。この面白い企みに気づき、「でこぼこにしたんだね?」と声を掛ければよかったと思いました。

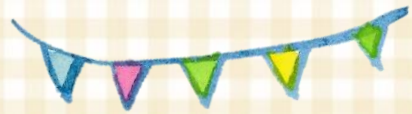
自分で思いついたことを試し、成し遂げようとする意志を子どもたちの姿から感じています。

(清武みどり幼稚園 さくら組・3歳児)

守川先生の手作り木のおもちゃは、遊び方が一つではないこと、おもちゃパーツの向きや組み合わせを変えて、想像しながらさまざまな遊び方を楽しめることが大切にされていました。子どもたちが木のおもちゃで遊ぶ様子は、エピソード記録集にご覧いただけますので、ぜひご覧ください。

〈後記〉守川先生のおもちゃで遊ぶ子どもたちの姿に感動し、私もMIWA工房に弟子入りし、木のおもちゃ作りをはじめました!おもちゃで遊ぶ子どもたちの姿を想像しながら、愛情を込めて作っております!

(報告者：山下愛美)



子どものWA!

プロジェクト会議で話題になったトピックスをご紹介します。

第2号は、宮崎国際大学の村上昇先生です!



村上 昇
宮崎国際大学学長

幼少期の教育 —12歳までの教育が人の一生を左右する?—

2000年にノーベル経済学賞を受賞したシカゴ大学教授のジェームズ・ヘックマン氏は、「5歳までの教育が人の一生を左右する」と言っています。ある意味、これは正しいと思います。ある意味正しいと言うのは、5歳までではなく「12歳までの教育が人の一生を左右する」と言った方がより正しいと思うからです(12歳まで人の脳は成長しますので)。

私は、自分の人生の大半(大学院時代から44年間)を主に脳の研究に費やしました。なぜ研究者になったのか?回答は明白です。私の祖母から受けた幼少期の教育のせいだと思います。小学校2年生から6年生までの夏休みの自由研究は、今でも鮮烈に記憶に残っています。小学2年生の夏休みは、山に毎日行き、木々に巣を張った蜘蛛を捕えたり、観察したりして、蜘蛛の種類、巣の形、巣の粘りなどの違いを絵日記に書きました。3年生では、色々な淡水魚と海水魚の尾ヒレの違い、4年生では蛍の光の研究、5年生ではミズの研究(ミズの研究は今思い出しても興奮します。ミズの体のどこまでをハサミで切ったら生き続けるか、あるいは、また伸びて来るかを、たくさんミズを採って調べました)、6年生は主に工作研究をしました。これらはすべて祖母が色々興味をそそる質問やアイデアをだしてくれて、どうしたら、その回答が得られるかのヒントをくれていたからです。工作の時は、ラジオや柱時計を分解して、組み立てることを何度もやりましたが、時には壊してしまうこともありました。テレビを分解して、元に戻せず、父から怒鳴られました。祖母が次の日に新しいテレビを買って来ていました。私がテレビを壊した時「形あるものは、いつかは壊れる。自然に壊れるより身になって壊れた方がいい」と祖母が言ってくれたのを覚えています。

さて、前置きが長すぎました。本題に入ります。幼児・学童の脳の成長に効果的と思われる幾つかの方法を書いてみました。すでに知っている方もいらっしゃると思いますが、参考になることもあるのではないかと、書くこととしました。

1. 左右の両方の脳を鍛えましょう(右と左の脳では役割が異なります。例えば音楽では歌詞は左脳で、リズムは右脳で処理されます。幼児・学童期に、どちらかに偏ってしまいますので、弱い方の脳を鍛えておけば、後で苦手な科目は少なくなります。鍛え方はネットでも検索できます。)
2. 子どもへの投資は、将来の担保です。たくさん玩具、遊び場、パズル、絵本、楽器などを与えてください。これらは必ず、脳の前頭連合野を成長させて行きます。
3. 子どもへの「愛情と自由」が脳の成長を促します。愛情は過ぎず構いません。但し、甘やかすことと愛情は違います。また、親は我慢して、子どものやること(玩具を組み立てることなど)にあまり手を出さず、できるだけ自由にさせましょう。
4. 褒めることも脳を成長させますので、たくさん褒めましょう。
5. 早生まれの子と遅生まれの子の差は小学校3年生頃までに解消しますので、それまでは差のあることを許しましょう。
6. 脳にはサイレントシナプス(脳の回路のパーツみたいなもの)が無数にあって、環境刺激によって活性化します(この活性化の差が、後に記憶力、推理力、思考力、創造力などの差につながります)ので、色々なパズル、迷路、神経衰弱など頭を使うゲームを、子どもと一緒にたくさんやりましょう。
7. 親と子の会話は極めて重要です(左脳の言語野と、前頭連合野を同時に成長させ推理判断力を付けます)。たくさんのおしゃべり相手になってください。また絵本を読んであげるにしても、最後は読まずに、どうなるか推理させるなど、親も工夫してください。

まだまだたくさん言いたいことがありますが、いつかお話する機会があればと思います。



やわらかい布をぎゅっぎゅっ!



はい、どうぞ!



シャボン玉、パチン!



トンネルできたよ!